

いじめ解消・暴力根絶旬間の取組として、3学期はクラスの良いところの木をみんなで書きました。挨拶がよくできること、友達に優しくできることなど、どのクラスもよいところがたくさんあることを嬉しく思っています。今年度最後の朝会通信になりましたが、自分たちの感想をよく書いてくれた高学年児童に心から感謝しています。

<朝会で話した主な内容> テーマ：「お互いの気持ちを考えること・大切にすること」

1月の終わりに友達の心を傷つけたり、からかったりしない学級になってほしいと話しましたね。皆さんは、そのことを心がけていますか。お笑い芸人の長州小力さんが書いているメッセージを紹介します。

「友達をからかったり、ふざけて悪口を言ったりすると、みんなが笑う。言われた本人も笑うことがある。君はそれをいじめとは思っていないかもしれませんが、言われた相手は深く傷つくことがあります。自分の態度や言葉がどう伝わっているか、相手の気持ちを考えることは、とても大切です。

僕は笑いの仕事をしています。乱暴な言葉づかいもします。悪口のやり取りで笑いが起きることはよくあります。そういうとき、自分の言葉を相手はどう感じているのか、テレビを見ている人はどう思っているのかいつも心配になります。僕自身、体のことや気にしていることを言われると、いくら笑いが起きてもやっぱり嫌な気持ちになります。中学生のとき、いじめに苦しんだ友達がいじめた人の名前を書いたことがあります。その中に、周りでふざけたり笑ったりしたことはあったけど、自分がいじめていたとは思っていませんでした。でも、いじめられた友達はそう思っていないのです。

自分が嫌だと感じることは人にもしないということをもう一度考えてみてください。お互いの気持ちを分かろうとしなければ、みんなが楽しく笑うことはできません。」

（参考「完全版 いじめられている君へ いじめている君へ いじめを見ている君へ」：一部記述を変更しています）

一人一人、違うよさをもっていてみんな大切な人であること、違いを認め合い、応援することができたら、安心して楽しく過ごすことができると思います。傷つき方や傷つく場所は人によって違います。特に一人対複数になったときは気を付けることが必要です。よいところの木を、嬉しい言葉でいっぱいにしてください。

- 1 芸人の人が、いつも知らず知らずのうちに人を傷つけてしまっていないか気にしているということを知り、自分も知らないうちに人を傷つけてしまっているのではないかと思った。自分の口から出る言葉の重みを感じながら生活したいと思う。
- 2 笑いを取る芸人さんも、体のことを言われると傷つきます。そして、傷つく場所も人によって違います。そこに気を付けて生活しようと思います。
- 3 見ている人の気持ちを考えてやらなければいけないというお笑い芸人さんの言葉が心に残った。いじめをされている人の気持ちを考えながら行動し、いじめをなくしていくことが大切だと思う。
- 4 いじめは複数対一人のときは気を付けることが一番心に残っているのと、笑っている人の中にもいじめだと思っている人がいるから、気を付けてしゃべる。
- 5 自分は1学期、友達と不快な言葉を何回も言っていました。当時、聞いている人の気持ちを考えず、それをもはや遊びと思っていました。聞く人の気持ちに気を付けて発言しようと思います。
- 6 心に残ったことは、長州小力さんの「やられた人が笑ってもこれはいじめ」ということです。これから、やられた人が笑っても、止めたいと思います。
- 7 心に残ったことは、いじめをして、した人や見ている人、された人までもが笑っているとき、された人は本当は心が深く傷ついているということです。いじめは絶対にしてはいけないと思います。
- 8 他の人の名前を使って遊ぶと、自分もまわりもその人も笑う。でも、心の中では傷ついているかもしれない、ということが心に残った。
- 9 いじめはしている側に自覚がなくても、されている側が傷ついていけばいじめになってしまうんだと思いました。自分がされて傷つくことは、これからはしないようにしたいです。
- 10 友達に軽く悪口を言って友達が笑っても、友達はすごく悲しい気分だから、言う側は言葉に気を付けていった方がいいと思う。
- 11 みんなが楽しく笑うことができるようにするためにはどのようにすればいいのか、改めて考えようと思いました。
- 12 自分たちが冗談で言ったことでも人を傷つけるということが分かった。今度からは、相手に伝えるとき、傷つける言葉じゃないか考えたい。